

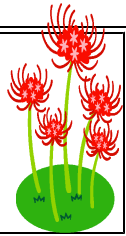


校長室だより

月立小学校 校長 村上克弥
令和2年9月28日
☎55-2260 第4号

教育目標

ふるさとに誇りをもち
夢と希望に満ちた
心豊かでたくましい児童の育成



おめげつあん

この時期、今年も中秋の名月(おめげつあん)がいつなのかとわくわくしているところです。そこで名月(お月見)について調べてみました。今年には10月1日だそうです。旧暦(太陰太陽暦)8月15日の夜に見える月のことを中秋の名月というそうです。現在の暦(新暦)ですと、9~10月頃にあたります。結構幅があるように思えますが、これは秋分の日以前で、一番近い新月の日を1日目(旧暦8月1日)とし、15日目を中秋とすると決められているからということです。

中秋の名月は「一年で最も美しい月」と言われています。その理由としては、
● 月の高さが見上げるのにちょうどいいこと(季節によって高さが変わるため)
● 秋は空気が澄み渡り、月が鮮やかに見えること
などを挙げることができます。
過ごしやすい気候のこの季節、月を眺めるのはちょうどいいですね。

中秋の名月といえば、お月見ですが、起源は古代の中国です。古くからこの日は月を祀る日とされ、満月を鑑賞する風習があったのだそうです。現在では「中秋節」と呼ばれ、中国の祝日にもなっています。

この風習は平安時代の日本に伝わり、貴族たちが月見の宴を催すようになりました。なお、庶民の間にまで浸透したのは、江戸時代のことです。

中秋は中国の中秋節から来ています。秋(旧暦7~9月)の真ん中なので「中秋」というそうです。日本では里芋をお供えする収穫祭だったそうです。もともと日本でもこの日の月を「芋名月」といって、里芋をお供えする収穫祭が行われていました。

ここへ中国の中秋節が伝わり、今日のお月見の風習が生まれたとされています。

中秋の名月にやることといえば、お月見(おめげつあん)ですが、月は愛でるだけではなく、信仰の対象でもありました。そこで、月にお供え物をするという習慣が生まれたのです。お供え物は地域によって異なりますが、一般的には縁側にススキを飾ります。ススキは稲穂の代わりであるとか、神様の依り代になるとも考えられています。他にも、お神酒(みき)や食べ物を三方に乗せてお供えします。

そして、お月見が終わったら、お供え物を食べます。月の光にあてたお供え物を食べると、月の力を得ることができる据说されています。

① 月見団子

お月見の定番といえば、月見団子ですね。収穫への感謝に由来するという月見団子は、地域によって作り方・形・積み方なども異なります。一般的には満月にちなんで、丸いものが多いようです。

ちなみにお供えする月見団子の数

- 12個説:1年の満月の数(閏年の場合は13個)
- 15個説:十五夜にちなんだもの

② 里芋・さつまいも

収穫祭にちなんで、里芋やさつまいもなどもお供えします。里芋は1株でも子芋・孫芋……と際限なく増えていくので、子孫繁栄の縁起物とされてきました。

その他、旬の果物や野菜などをお供えすることもあります。



4年生の教科書に「ごんぎつね」があります。その中で登場人物の兵十と化助が話をしているのをごんが隠れてその話を聞いている場面の中で「月のいい晩でした・・・」とあります。なぜかお月様の美しさを想像させられる場面で、ちょうどこの中秋の名月の時期と捉えることができます。

昔から日本人は、月に対して信仰心がありそして何に対しても感謝の気持ちを備えています。子供たちにも自然愛や畏敬の念を持たせるためにもお月見(おめげつあん)を家族で楽しむ時間にしてほしいものだと思います。

収穫に感謝して、お月見(おめげつあん)、お供え物をして、お月様のパワーをチャージしたいと思います。